HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	浦幌町におけるニホンカナヘビの記録
Author(s)	持田, 誠
Citation	浦幌町立博物館紀要, 18, 43
Issue Date	2018-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/76911
Type	journal article
File Information	Bulletin of the Historical Museum of Urahoro18_43.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

採集記録・観測記録

浦幌町におけるニホンカナヘビの記録

持田　誠 [1)]

Makoto Mochida. 2018. Records of *Takydromus tachydromoides* in the Urahoro Forest Park, Tokachi, Hokkaido.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 18: 43.

北海道爬虫両棲類研究会は、北海道の爬虫類・両棲類の分布・生態情報を把握するため、ハープソン Hokkaido 2015-2017 を開催した。浦幌町立博物館もこれに参加し、爬虫類のニホンカナヘビ *Takydromus tachydromoides* (Schlegel, 1838) の情報 2 件を提供した。白糠丘陵一帯での爬虫類の正確な記録は少ない（徳田・照井 2018）ことから、分布記録として記載しておく。

2017 年 5 月 20 日 14 時頃、浦幌町留真の留真温泉において、ニホンカナヘビ成体を確認した。場所は温泉横のコテージ付近で、排水側溝を走り廻っていた。捕獲・標本化ができなかったので写真で記録し、開催中のハープソン Hokkaido 2015-2017 に報告したところ、事務局の徳田龍弘氏によりニホンカナヘビ成体として公式に記録された（徳田・照井 2018）。

また、2017 年 8 月 28 日 11 時頃には、浦幌町東山のうらほろ森林公園において、ニホンカナヘビの幼体が採集された。採集者は浦幌町立浦幌小学校生徒の岩渕宏勝氏で、理科の昆虫観察授業の際に発見し、捕獲したものである。頭胴長は 8.8cm で、腹面は白く背面は茶褐色の華奢な印象を受ける個体である。

個体は博物館で受領し、写真撮影後、ただちにエタノールによる液浸標本とした。その後、写真を徳田氏に送付し、ニホンカナヘビ幼体であると同定された。ハープソン Hokkaido 2015-2017 の開催期間からは外れていたため、参考記録となった。

ニホンカナヘビは、道北の一部を除く全道に生息するとされるが（徳田 2015）、道東での確認例は非常に少ない（徳田・照井 2018）。これまで当館では爬虫類の標本収蔵が無く、成体も含めてこれが初の収蔵標本となる。標本は浦幌町立博物館（URAH）へ収蔵した。

採集個体を提供いただいた岩渕宏勝氏および指導教員の丸山怜華教諭、同定および助言をいただいた北海道爬虫両棲類研究会の徳田龍弘氏に深く感謝する。

1) 浦幌町立博物館（〒 089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町 16-1）

図 1　留真温泉裏で記録されたニホンカナヘビ May. 20, 2017

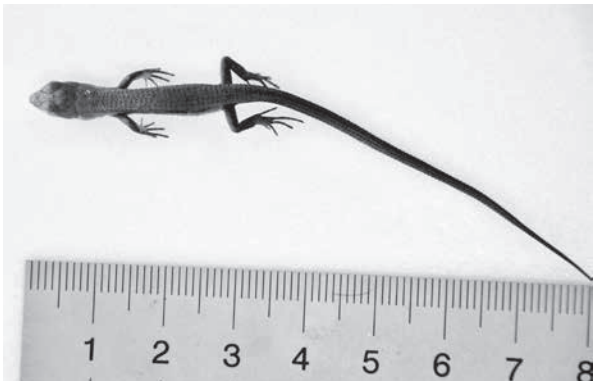

図 2　森林公園で捕獲されたニホンカナヘビ幼体 Aug. 28, 2017

採集標本

ニホンカナヘビ *Takydromus tachydromoides* (Schlegel, 1938) 北海道十勝郡浦幌町字東山、うらほろ森林公園、Aug.28, 2017. Kousho Iwabuchi（岩渕宏勝）

引用文献

徳田龍弘．2015．訂版北海道爬虫類・両棲類ハンディ図鑑．北海道新聞社，札幌．

徳田龍弘・照井滋晴．2018．ハープソン Hokkaido 2015–2017 結果報告書（北海道爬虫両棲類研究報告別冊 003）．北海道爬虫両棲類研究会，札幌．